

553.43/.44+553.462(521.76) : 550.835+550.85

奈良県南部地域の放射能強度調査

小村 幸二郎 大町 北一郎

当地域には熊野酸性火成岩が発達し、また多くの金属鉱床が分布する。筆者らは、昭和32年12月3日から16日まで、朝町三盛のモリブデン・銅鉱床、鉛山および南海の銅・鉛・亜鉛鉱床について放射能強度調査を行なった。測定には Philips Pocket Battery Monitor および医理学研究所製の DCP-3 型ガイガーを使用した。

各鉱山における放射能強度は次表のとおりで、一応概略的に知ることができた。しかし、これらの鉱山においては、とくに注意されるべき放射能異常は認められなかった。

鉱山名	放射能強度 (DCP-3 による) cpm				
	坑内 (空間)	鉱脈	鉱石	母岩	自然数
第1 朝町三盛	32	32	30**	33	30
第2 朝町三盛	31	31	29**	31	28
鉛山		30~46*	31**		22~47
南海			41**		27~40

* 野外露頭において測定したもの

** 野外において測定したもの

553.495 (522.3)

佐賀県杉山鉱山における核原料資源について

木下 亀城

杉山鉱山は佐賀県小城郡富士村字杉山 (7万5千分の1地質図小城) にあつて、国鉄線佐賀駅からバスなどにより約1.5時間で達する。

付近の地質は黒雲母花崗岩と、それを貫く両雲母花崗岩からなり、後者は岩体の中央部は白雲母花崗岩となつている。

鉱床は前に両花崗岩の接触部に近い両岩中数10m四方の範囲にある6個のペグマタイトおよび石英脈からなる。ほかに25m×50mの範囲内に珪石の転石鉱床があり調査当時300t/月の珪石を出荷していた。

Scintillation counter による現地測定の放射能強度は、自然計数5μR/hRのときに、黒雲母花崗岩3~4、白雲母花崗岩5~13、ペグマタイト7~20μR/hRであつた。

ペグマタイトの異常はおもにそのなかに含有されているフェルグソン石によるものと思われる。

放射性鉱物は1号、5号鉱床から認められ、ペグマタイト中の赤褐色になつた長石中であつて、フェルグソン石・変種ジルコン・モナズ石・コロンブ石などが認められた。フェルグソン石はカリ長石帯から産し、ほとんどメタミクト状態にある。変種ジルコンはカリ長石帯から少量産する。モナズ石は桃白色カリ長石の割れ目に存在する。ジルコンは5号鉱床から緑泥石とともに産したといわれる。

ペグマタイト中の放射性鉱物はごく微量であつて、とくに資源的意味は認められない。(抄録: 林 昇一郎)